

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュ マンスリー

No.7

2018/02/28

りそなホールディングス 市場企画部



(2018年3月号)

○今月の相場見通し (サマリー)

※各マーケットコメントは2月28日 (水) 9:00現在

○今月の注目ポイント

		2月27日現在 (矢印は1月末比)	3月の予想
為替相場	ドル・円 (円)	↘ 107.33	上昇 ↗ 103.00 ~ 110.00
	ユーロ・円 (円)	↘ 131.30	下落 ↘ 127.00 ~ 134.00
株式相場	日経平均 (円)	↘ 22,390	上昇 ↗ 20,500 ~ 24,000
	NYダウ (ドル)	↘ 25,410	上昇 ↗ 23,500 ~ 26,500
長期金利	日本 (%)	↘ 0.04	横ばい → 0.00 ~ 0.12
	米国 (%)	↗ 2.89	横ばい → 2.70 ~ 3.20

FRB金融政策の行方

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
景気動向	○	【賃金・物価動向】1月雇用統計では、寒波の影響も一部にあり、賃金の上振れが確認され、金利の上昇に繋がった。また1月CPIも緩やかながら上昇の兆しが窺える。上振れればFRBの利上げ加速との議論につながりやすい。 【米国減税】米国減税の影響により、指標は上振れる可能性が高いが企業や個人の行動には不確実性があり、指標の振れは出やすい。
金融政策	◎	【米国金融政策】20、21日にFOMCが開催される。利上げ実施が見込まれるが、注目は先行きの利上げペース及び中立金利見直し変更の有無。利上げは年3回ペースを維持したうえ、減税政策やインフレ動向次第で4回も視野に入れた政策運営となろう。 【ECB金融政策】9月以降の量的緩和に関する議論が浮上する可能性はあるが、ユーロ高への警戒感強いなか、利上げ論議やフォワードガイダンス(金融政策の方針)変更論議は先送りされよう。
政治	△	【欧州政治】3/4にイタリアで総選挙が実施されるほか、ドイツで連立政権の是非を問うSPD(第2党)党員投票結果が判明する。イタリアは選挙後、連立交渉入りが見込まれ、ドイツは賛成多数となっても連立内の政争が予想される。ユーロ離脱の議論まで進展する可能性は低く、悲観する必要はないが、<u>堅調を続けてきたユーロ相場の調整のきっかけとなりやすい。</u> 【中国政治】3/5から全人代(全国人民代表大会)が開催される。2018年度経済成長率目標が公表され、前年比+6.5%と予想される。しかし、<u>構造改革を推進するなか、緩やかな景気減速を許容する見込み。</u>

今月の見通し

為替	【ドル円】ドル円は徐々に戻りを試す。2月以降の急激なボラティリティの上昇に一服感があり、長期金利上昇と円高が進行するリスク回避的な動きは一服。日銀の新体制のもとで出口の議論は浮上しにくく、ドル円は徐々に戻りを試す展開を想定する。 【ユーロ】ユーロは政治面・金融政策面でじり安。政治面でイタリアやドイツの連立動向に不透明感があるなか、ECBはユーロ高への警戒から量的緩和縮小後の政策運営の議論は先送りすると見込まれ、ユーロはじり安推移を想定。
株式	【日本株】米株高やドル円反発を背景に、緩やかな上昇を予想。他国と比較して急落後の戻りが鈍いなか、PER13倍台と割安感が台頭しており、買いが入りやすい。 【米国株】良好な企業決算・堅調な米景気に焦点が当たり上昇する展開を予想。米金利の急ピッチな上昇が一服するなか、減税効果やファンダメンタルズを織り込む中、緩やかな上昇が見込まれる。
長期金利	【円金利】日本国債の10年までのゾーンは引き続き良好な需給を背景に0.04-0.08%を中心とした横ばい圏での推移を見込む。欧米金利上昇につれた金利上昇には日銀が国債買入オペで対応。日銀総裁・副総裁人事も金利上昇の材料となりづらい。 【米金利】米国債は金利高止まりを見込む。断続的に指標や入札等のイベントがあり、神経質な動きとなるが、一方向の動きとはなりにくい。イベント前に警戒感から金利上昇、イベント後の金利低下を繰り返しながら金利は高止まる展開を見込む。

○今月の重要日程

1日(木)	米	2月ISM(製造業)	9日(金)	日	金融政策決定会合
4日(日)	伊	総選挙	9日(金)	米	2月雇用統計
4日(日)	独	SPD党員投票結果判明	13日(火)	米	2月CPI
5日(月)	中	全人代	18日(日)	露	大統領選挙
7日(水)	米	地区連銀経済報告	21日(水)	米	FOMC
8日(木)	欧	ECB理事会	23日(金)	日	2月CPI

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



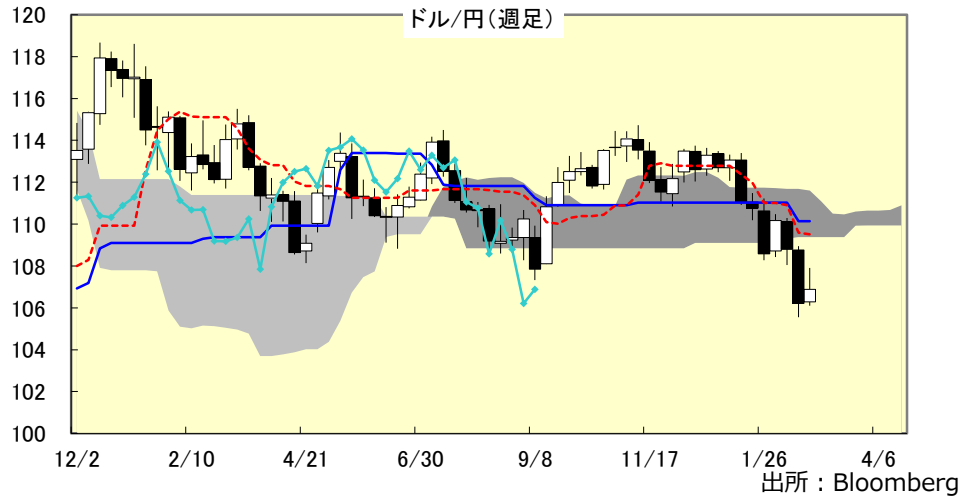
りそな マーケットフラッシュ マンスリー

(2018年3月号)

2018/02/28

○今月の相場見通し① 為替

ドル 円



米ドル・円



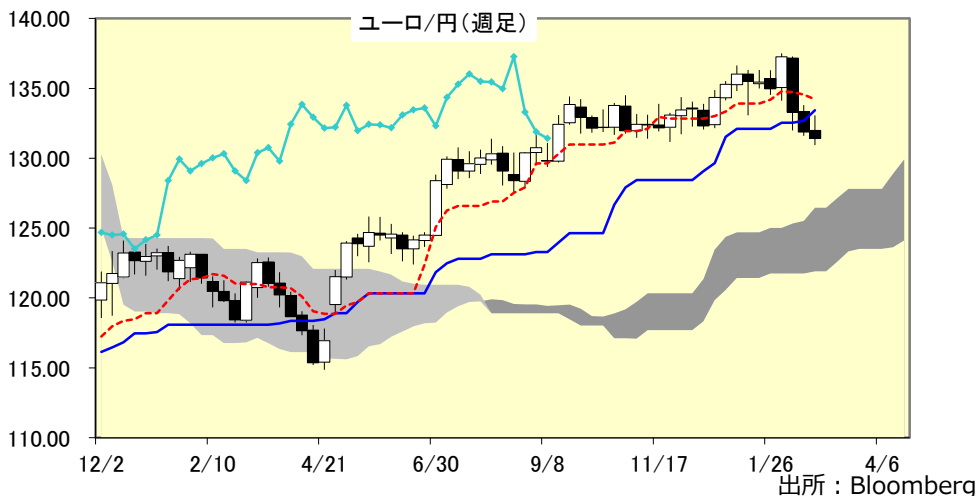
ドル・円は上昇

103.00 - 110.00円

ドル円は徐々に戻りを試す

2月に入り、市場変動率が急速に高まり、株安・金利上昇が進行したものの、徐々に落ち着きつつある。2月初旬に見られた米金利上昇がリスク回避的な円高につながるリスクは後退していると言える。3月はパウエル新議長の下で、初めて長期の景気や金融政策見通しが公表されるが、これまでの緩やかな利上げスタンスに変更はないであろう。米国の減税の影響を勘案すると今後景気に上振れのリスクがある。ボラティリティは徐々に落ち着き、ドル円も緩やかな金利上昇の下で、底入れするとみる。日銀新執行部は黒田総裁が留任し、新たにリフレ派の経済学者の若田部教授が副総裁となる見通し。若田部教授が量的緩和に前向きであることや安倍首相が2019年10月予定の消費増税後の景気に慎重な見方をしていることを踏まえると出口に向けた議論がしづらい状況となった。段階的な利上げが見込まれるFRBとの金融政策格差もテーマとなり、ドル円は徐々に戻りを試す展開を想定する。

ユーロ



ユーロドル



ユーロドルは下落

1.19 - 1.25ドル

ユーロ円



ユーロ円は横ばい

127.00 - 134.00円

ユーロは政治面・金融政策面でじり安

月初は政治面でイタリア総選挙とドイツの社会民主党（SPD）の党員投票が注目。イタリア総選挙過半数獲得勢力がなく、選挙後は連立交渉が焦点。政権の担い手不在の期間が長期化するリスクがある。SPDの国民投票は大連立が成立したとしても連立与党内の考え方の隔たりは大きい。選挙後はユーロが売られやすいとみる。月末にかけてはECBの金融政策が焦点となる。ユーロ圏の指標の改善にやや陰りが見られていること、ECBのユーロ高警戒を踏まえれば量的緩和縮小後の政策運営の議論は先送りとなろう。米国の金融政策スタンスとの違いは鮮明。投機筋のポジションがユーロ買い持ちとなっていることから巻き戻しの動きも入りやすく、月末にかけてユーロは一段安の展開を見込む。ユーロ円も徐々に下値を切り下げるであろう。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュ マンスリー

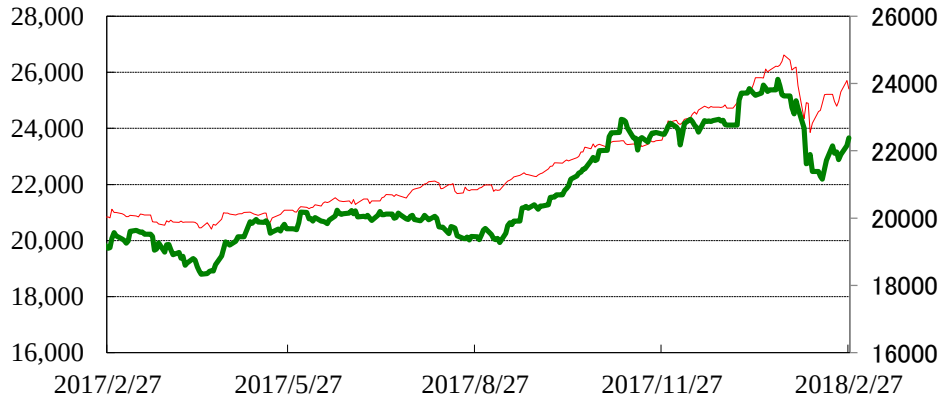
(2018年3月号)

2018/02/28

○今月の相場見通し② 株式、長期金利

株 式 見 通 し

— NYダウ (左軸、ドル) — 日経平均 (右軸、円)



出所：Bloomberg

日経平均



日経平均は上昇

20,500 – 24,000円

米株高やドル円反発を背景に緩やかな上昇を予想。ボラティリティの落ち着き、緩やかな金利上昇を背景に米株高に連れ高となる。また他国と比較し出遅れていること(2/27時点、日経平均：年初来約▲1.6%、NYダウ：年初来約+2.8%)や、PER13倍台と割高感が薄れていることが買いを誘いやすい。

NYダウ



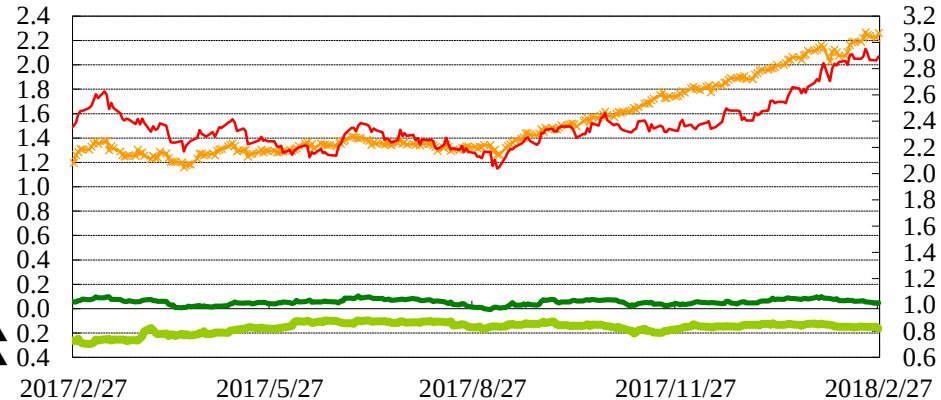
ダウは上昇

23,500 – 26,500ドル

ボラティリティが落ち着くなか、値を上げる展開を予想。2月初に急上昇したVIX指数(株の変動率指数)は足もと低下し落ち着きがみられ、相場急落前同様に良好な企業決算・堅調な米景気に焦点が当たり上昇するだろう。また急ピッチな上昇が相場急落の要因の一つとされた米金利は上昇こそすれ、緩やかな上昇が見込まれ、株の堅調地合いを变調させる材料とはならない見込み。

長 期 金 利 見 通 し

— 日本10年金利 (左軸) — 日本2年金利 (左軸)
— 米国2年金利 (左軸) — 米国10年金利 (右軸)



出所：Bloomberg

日本国債10年



金利は横ばい

0.00 – 0.12%

日本国債の10年までのゾーンは引き続き良好な需給を背景に0.04-0.08%を中心とした横ばい圏での推移を見込む。欧米金利上昇につれた金利上昇には日銀が国債買入オペで対応し、一方に金利が上昇する展開は回避されるであろう。国会に提示された日銀総裁・副総裁案は債券市場にはポジティブ。当面出口論議は先送りの思惑が働きやすく、金融政策面からも金利は上昇しづらい。

米国債10年



金利は横ばい

2.70 – 3.2%

米国債は金利横這いを見込む。断続的にイベントがあり、神経質な動きとなりやすい。9日雇用統計、16日CPIはインフレ動向、12-14日に米国債入札は需給懸念がテーマとなる。また21日FOMCではFRBの先行きの金融政策スタンスが焦点となる。イベント前に警戒感から金利上昇、イベント後の金利低下を繰り返しながら金利は高止まる展開を見込む。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュ マンスリー

(2018年3月号)

2018/02/28

○マーケットカレンダー

【前半】

	日本	米国	その他
3/1(木)	2月消費動向調査	1月建設支出 1月個人所得・消費支出 2月ISM製造業景況感指数	(EU)1月失業率
3/2(金)	1月家計調査 1月雇用統計 2月マネタリーベース		
3/5(月)		2月ISM非製造業景況感指数	(EU)1月小売売上高
3/6(火)		1月製造業受注	(豪)1月小売売上高 (豪)準備銀行理事会
3/7(水)	1月景気動向指数	1月消費者信用残高 1月貿易収支 2月ADP民間雇用調査	★(中)2月貿易統計
3/8(木)	★2月景気ウォッチャー調査 ★日銀金融政策決定会合(-9日) 10-12月期GDP2次速報値 1月国際収支 2月貸出・預金動向		(英)BOE金融政策委員会 (豪)1月貿易収支 ★(EU)ECB定例理事会 ★(独)1月製造業受注
3/9(金)	2月マネーストック	★2月雇用統計	(英)1月鉱工業生産・製造業生産 ★(独)1月鉱工業生産 ★(独)1月貿易収支
3/12(月)		2月財政収支	
3/13(火)	1月第3次産業活動指数	★2月CPI	
3/14(水)	★1月機械受注 日銀金融政策決定会合議事要旨(1/22-23開催分)	★2月小売売上高 1月企業在庫	(EU)1月鉱工業生産 (中)2月固定資産投資
3/15(木)		1月対米証券投資 2月輸入物価指数 3月NY連銀製造業景況感指数 3月フィラデルフィア連銀製造業景況感指数	
3/16(金)	1月稼働率	★2月鉱工業生産 ★2月住宅着工	(EU)2月CPI

【後半】

	日本	米国	その他
3/19(月) 3/20(火)	★2月貿易統計	★FOMC(-21日)	(EU)3月消費者信頼感指数 (英)2月CPI
3/21(水) 3/22(木)	1月全産業活動指数	★2月中古住宅販売件数 2月景気先行指数	(独)2月PPI (英)2月失業率 (NZ)準備銀行理事会
			(豪)2月失業率
3/23(金) 3/26(月) 3/27(火)	★2月CPI	★2月新築住宅販売 2月シカゴ連銀全米活動指数 ★1月S&PコアロジックCS住宅価格指数 3月リッチモンド連銀製造業景況感指数	★(独)3月IFO景況指数 (EU)2月マネーサプライ
3/28(水)		10-12月期GDP確報値 2月中古住宅販売成約指数	
3/29(木) 3/30(金)	2月商業販売統計 ★2月鉱工業生産 2月家計調査	2月個人所得・消費支出 3月シカゴ地区製造業PMI	
	2月雇用統計 2月住宅着工件数		
3/31(土)			

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュ マンスリー

(2018年3月号)

2018/02/28



○市場動向

			17年3月末	17年6月末	17年9月末	17年12月末	2/27(火)
外国為替	東京	ドル・円(仲値)	116.55	112.81	112.00	112.74	106.86
		ユーロ・円(仲値)	122.79	119.81	128.02	132.81	131.81
		豪ドル・円(仲値)	84.38	85.82	86.24	88.56	84.10
		NZドル・円(仲値)	81.24	78.47	82.04	81.45	78.01
		ドル・円(15：30時点)	111.79	112.06	112.69	112.70	106.82
		ユーロ・円(15：30時点)	119.43	128.11	132.75	134.69	131.73
		ユーロ・ドル(15：30時点)	1.0684	1.1433	1.1780	1.1950	1.2332
		ドル円直先スワップ [※] (3ヵ月、銭/ドル)	d 41.3	d 45.6	d 53.9	d 54.2	d 65.9
	N Y	ドル・円	111.39	112.39	112.51	112.69	107.33
		ユーロ・ドル	1.0652	1.1426	1.1814	1.2005	1.2233
英ポンド・ドル		1.2550	1.3025	1.3398	1.3513	1.3909	
スイスフラン・ドル		1.0026	0.9579	0.9683	0.9743	0.9389	
株式	東京	日経平均（225種/円）	18,909.26	20,033.43	20,356.28	22,764.94	22,389.86
		東証株価指数（TOPIX）	1,512.60	1,611.90	1,674.75	1,817.56	1,790.34
		日経ジャスダック指数	3,045.84	3,251.67	3,593.10	3,950.46	4,125.41
		東証マザーズ指数	1,070.89	1,181.74	1,093.10	1,231.99	1,230.03
		東証1部出来高（百万株）	2,222.23	1,968.97	1,731.36	889.15	1,329.10
		NYダウ（ドル）	20,663.22	21,349.63	22,405.09	24,719.22	25,410.03
	海外	ナスダック総合指数	5,911.74	6,140.42	6,495.96	6,903.39	7,330.35
		中国上海総合指数	3,222.51	3,192.43	3,348.94	3,307.17	3,292.07
		SENSEX（インド）	29,620.50	30,921.61	31,283.72	34,056.83	34,346.39
		ブラジルボベスパ指数	60,227.29	62,899.97	74,293.51	-	86,935.44
		MICEX指数（ロシアドル建）	1,995.90	1,879.50	2,077.19	2,109.74	2,341.89
		商品	金（NY先物、期近）（ドル）	1,247.30	1,242.30	1,281.50	1,309.30
原油（WTI先物、期近）（ドル）	50.60	46.04	51.67	60.42	63.01		
CRB先物指数	185.88	174.78	183.09	193.86	195.39		

			17年3月末	17年6月末	17年9月末	17年12月末	2/27(火)
国内金利	無担保コール	オーバーナイト物	-0.060	-0.069	-0.063	-0.062	-0.048
		3ヵ月	0.05727	0.05727	0.05727	0.06727	0.06909
	日本円TIBOR	6ヵ月	0.10636	0.10636	0.10636	0.11636	0.12636
		利付2年国債	新発債	-0.195	-0.224	-0.119	-0.170
	利付5年国債	新発債	-0.114	-0.125	-0.070	-0.145	-0.070
	利付10年国債	新発債	0.041	0.065	0.084	0.000	0.065
	利付20年国債	新発債	0.570	0.630	0.590	0.535	0.595
	円／円スワップ	2年	0.05065	0.04250	0.03549	0.04517	0.04926
		5年	0.10307	0.09877	0.10999	0.10613	0.11188
		10年	0.26436	0.25208	0.26370	0.27050	0.27000
20年		0.67917	0.63193	0.65865	0.66423	0.63500	
海外金利	米金利	FFレート	0.81	1.05	1.05	1.31	1.16
		TB（3ヵ月）	0.752	1.011	1.041	1.376	1.660
		T-NOTE（10年債）	2.387	2.304	2.334	2.405	2.893
	LIBOR	日本円（3ヵ月）	0.02593	-0.00014	-0.05121	-0.02417	-0.06183
		米ドル（3ヵ月）	1.14956	1.29917	1.33389	1.69428	2.00625
		ユーロ（3ヵ月）	-0.35786	-0.37200	-0.37943	-0.38471	-0.37929
		英ポンド（3ヵ月）	0.33744	0.30669	0.33500	0.52106	0.58063
		スイスフラン（3ヵ月）	-0.72960	-0.73000	-0.72600	-0.74620	-0.74460
		豪ドル（3ヵ月）	1.79000	1.71000	1.71000	1.77890	1.78000
		NZドル（3ヵ月）	2.00500	1.99000	1.96000	1.88000	1.91500

(注) 月末が休日の場合は前営業日データ

(注) 月末が休日の場合は前営業日データ

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュ マンスリー

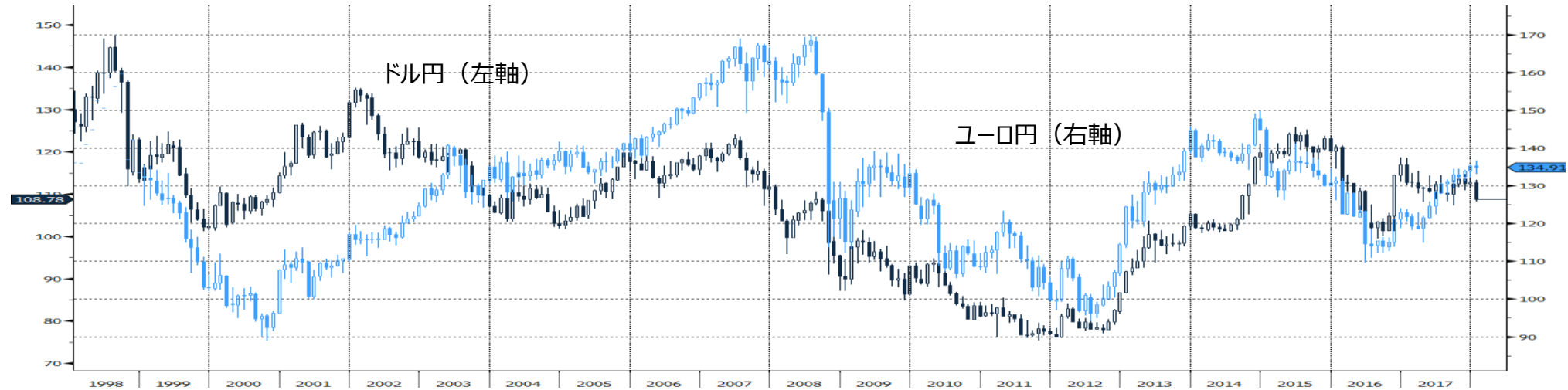
(2018年3月号)

2018/02/28

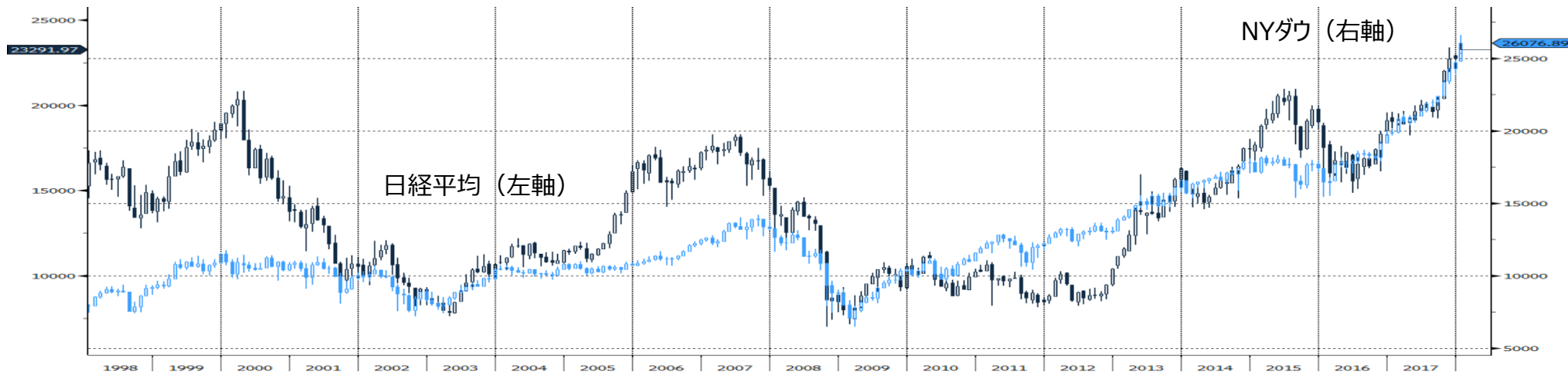
○チャート集① 過去20年間の相場推移（外国為替、株式）

出所：Bloomberg

ドル円とユーロ円



日経平均とNYダウ



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュ マンスリー

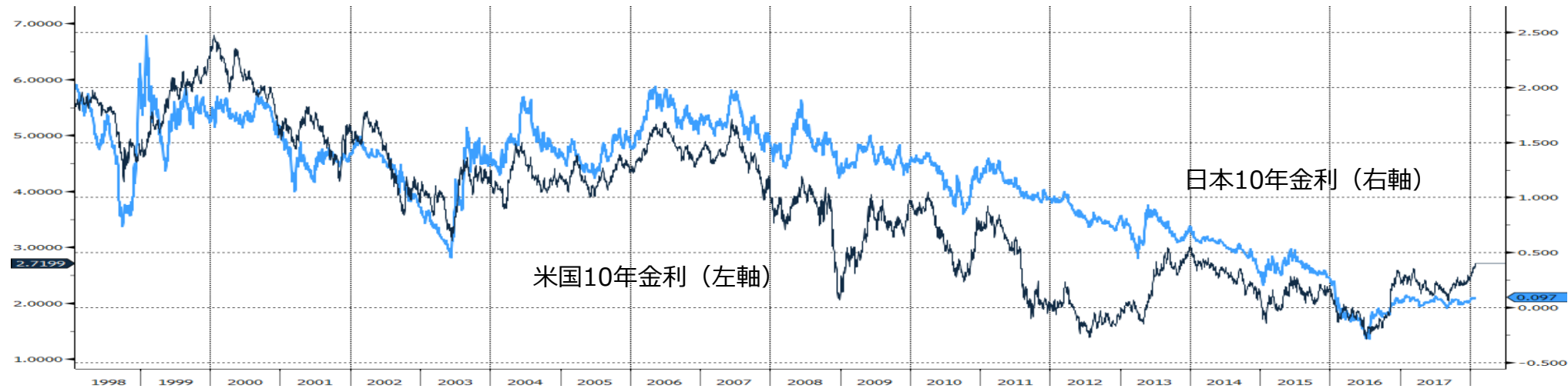
(2018年3月号)

2018/02/28

○チャート集② 過去20年間の相場推移（長期金利、商品）

出所：Bloomberg

米国10年金利と日本10年金利



原油（WTI原油先物）と金（NY先物）



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュ マンスリー

(2018年3月号)

2018/02/28

○チャート集③ 過去20年間の相場推移（新興国株式）

出所：Bloomberg

中国上海総合指数



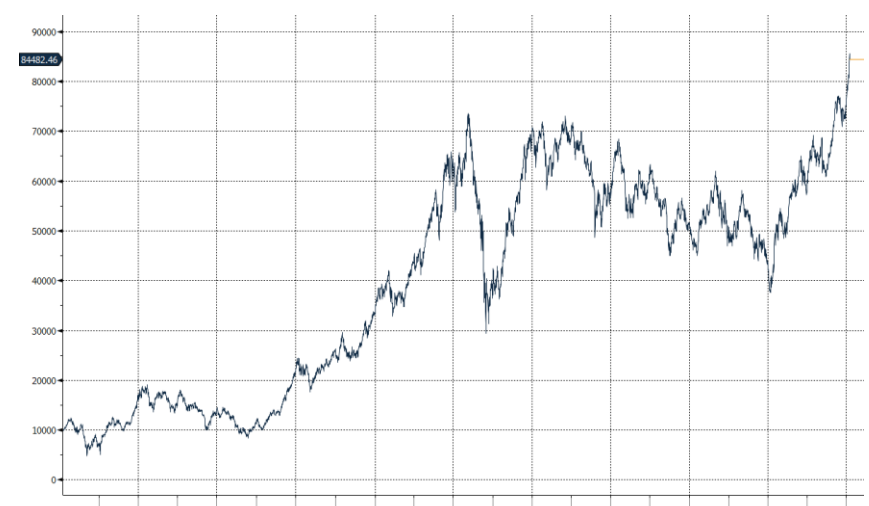
インドSENSEX指数



ロシアMICEX指数



ブラジルBOVESPA指数



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュ マンスリー

(2018年3月号)

2018/02/28

◎景気の現状と見通し① 日本

景気の現状

8四半期連続でプラス成長

日本経済は、10-12月期GDPが8四半期連続でプラス成長も、鉱工業生産や機械受注の減少が気になり

1-1 10-12月期GDP速報値、前期比+0.1%（7-9月期+0.6%）と8四半期連続でプラス成長

個人消費が+0.5%、設備投資が+0.7%と牽引した一方、公的需要(▲0.2%)や住宅(▲2.7%)がマイナス寄与となり、前期からはやや減速した。

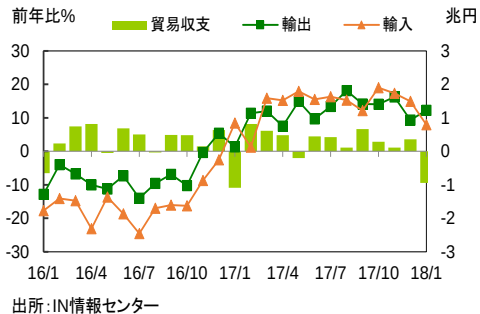
1-2 鉱工業生産、生産は緩やかな持ち直しの動き

1月鉱工業生産は、前月比▲6.6%と大幅低下。経済産業省の製造業予測調査によると、2月は+9.0%、3月は▲2.7%の見通しで、1-3月期は8四半期ぶりのマイナスとなる可能性。

1-3 8ヶ月ぶりに貿易赤字

1月貿易収支は9,434億円の赤字、8ヶ月ぶりの赤字。輸出は自動車の増加が目立った一方、輸入は原油、液化天然ガスなどの鉱物性燃料が増加した。対米貿易収支は3,496億円と12ヶ月連続の黒字。

貿易統計



機械受注



1-4 個人消費、実質ベースで3ヵ月ぶりのマイナス

12月家計調査によると、1世帯当たり消費支出は、前年比▲0.1%と3ヵ月ぶりのマイナス（11月+1.7%）。

1-5 機械受注、製造業、非製造業（船舶・電力を除く）共に減少

12月の機械受注によると、船舶・電力を除く民間からの受注額は、前月比▲11.9%の7,926億円と大幅減少。製造業、非製造業、外需が減少した一方、官公需は増加。

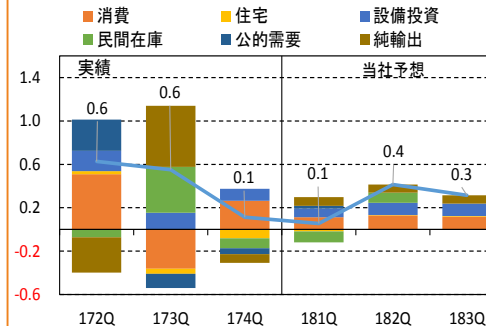
1-6 消費者物価指数、総合の伸び拡大も、コアは伸び悩み

1月消費者物価指数は総合CPIは前年比+1.4%(12月+1.0%)、生鮮食品を除くコアCPIが前年比+0.9%(+0.9%)。生鮮野菜(+21.3%)を中心に食品価格(+3.2%)の伸びが総合指数を押し上げた。一方、サービス価格(+0.1%)が低迷し、コア指数は伸び悩み。

GDP予想

GDP予想 - 2017年度+1.6%、2018年度+1.2%、2019年度+0.9%を想定

日本の2017年度の実質GDP成長率は前年度比+1.6%を想定。住宅投資の弱さを受け前回の+1.8%から下方修正。2018年度は+1.2%を想定(据え置き)。2018年度、2019年度は米中引き締めの影響から2017年度比鈍化を見込む。ただ、米国税制改革などを背景に緩やかな減速に留まる見通し。



%、内訳は寄与度	2016年度 実績	2017年度 予測	2018年度 予測	2019年度 予測
実質GDP	1.1	1.6	1.2	0.9
個人消費	0.1	0.6	0.5	0.5
住宅投資	0.2	0.0	-0.1	-0.0
設備投資	0.2	0.5	0.4	0.4
在庫投資	-0.3	-0.0	0.1	0.0
公的需要	0.1	0.1	-0.0	0.0
外需	0.7	0.4	0.3	0.1

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュ マンスリー (2018年3月号)

2018/02/28

○景気の現状と見通し② 米国・欧州・中国

米国

米国経済、賃金の伸びが拡大し、インフレ期待が上昇

米国経済は、雇用統計にて賃金の伸びが確認されたほか、消費者物価指数が予想対比上振れたことで市場のインフレ期待が高まったほか、米金利上昇に繋がった。

1月雇用統計、賃金の伸びが拡大

非農業部門雇用者数は前月比+20.0万人、製造業+15千人（12月+21千人）の伸びが鈍化した一方、サービス業は+139千人（12月+111千人）と伸びが拡大。賃金は前年比+2.9%（12月+2.7%）と伸びが拡大。賃金の伸びは悪天候の影響が一部で指摘されている。

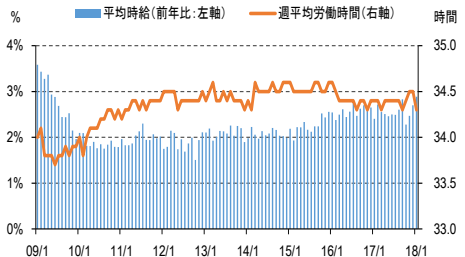
1月小売売上高は前月比▲0.3%、市場予想（+0.2%）を下回った。

全13業種中5業種で売上が減少、建設資材、自動車、健康用品、スポーツ・書籍・趣味用品、家具類が減少した一方、ガソリンスタンド、その他小売りなどが増加した。

1月消費者物価指数、前年比+2.1%

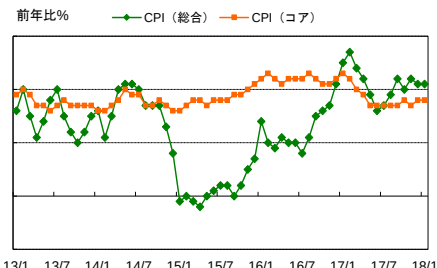
総合は前年比+2.1%（予想+1.9%、12月+2.1%）、コアは前年比+1.8%（予想+1.7%、12月+1.8%）といずれも予想対比上振れ。

雇用統計(平均時給)



出所：Bloomberg

消費者物価指数



出所：HAVER、りそなHD

欧州

ドイツ経済、景況感指数は過去最高値から反落

ドイツ経済指標は前月からは鈍化。

12月鉱工業生産、小売売上高は前月から減少。貿易面では、黒字幅が縮小した。

2月景況感指数は、Ifo115.4(1月117.6)、ZEW92.3(同95.2)といずれも過去最高値から反落。

ユーロ圏の指標では、物価面では1月消費者物価指数が前年比+1.3%（12月+1.4%）とやや鈍化。

中国

10-12月期GDPは市場予想を上回る

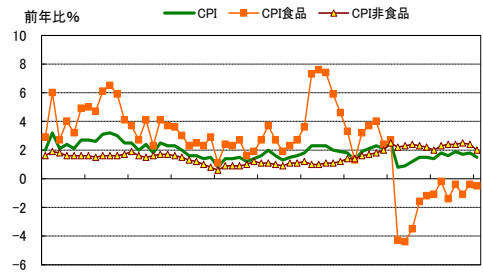
1月貿易収支は2,034億米ドルと黒字幅が縮小（12月5,466億米ドル）。

1月消費者物価指数（CPI）は前年比+1.5%と、12月+1.8%から伸び率は低下した。

2月製造業PMIは50.3と1月51.3から低下。

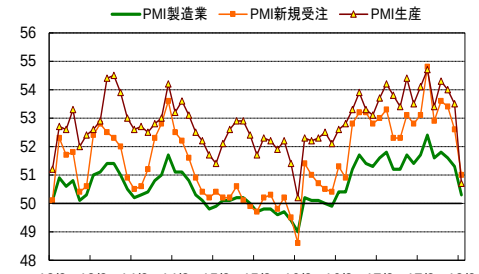
尚、1月は春節による振れがあるため、鉱工業生産や小売売上高などは公表されない。

消費者物価指数



出所：Bloomberg、りそなHD

鉱工業生産と製造業PMI



出所：Bloomberg、りそなHD

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。